

〔取材依頼〕

コロナ禍でも前を見据え研鑽する隊員たち

～9月23日-10月2日・JICA筑波（つくば市）で国内待機中のJICA海外
協力隊員向けに農業・農村開発研修実施～

新型コロナウイルスの世界的感染拡大などの影響により、開発途上国へ派遣されていた JICA 海外協力隊員約 1,800 人は帰国し、日本で待機しています。国際協力機構（JICA）は、これら待機中の海外協力隊員に対し、再赴任した際の協力活動の円滑な実施や効果向上などのため、研修を企画・実施しています。今回は、農業・農村開発分野の研修に適した圃場・設備・指導スタッフを持つ JICA 筑波（茨城県つくば市高野台 3-6）で、10 日間・17 名の隊員向けに研修を実施します。

待機中も研鑽に励む隊員の姿・生の声の取材・報道及び個別インタビューをぜひご検討ください。

茨城県つくば市にある JICA 筑波は、世界と日本の地域（茨城県・栃木県）をつなぐ拠点として、開発途上国の行政官や技術者（JICA 研修員）を対象に 40 年にわたり、研修を実施しています。特に農業・農村開発分野については、途上国での農業・指導経験の豊富な専門家、農業実習が可能な圃場や設備を有しており、途上国に派遣される海外協力隊員向けの研修も実施してきました。今回、これらの経験を生かし、待機中の海外協力隊員向けに、10 日間の農業・農村開発研修を実施します。



JICA 筑波で稲作を学ぶ研修員（新型コロナ感染拡大前）

研修に参加する海外協力隊員は、JICA の専門家や民間企業の技術者などからなる多彩なスタッフから、稲作、野菜栽培、灌漑、農業機械等の農業・農村開発に係る実践的な講義・実習指導を受けます。研修中には、JICA 筑波に滞在中の JICA 研修員、JICA スタッフとの交流会も予定されており、国際協力や農業分野など、隊員たちの今後のキャリアについても意見交換を行います。

記

1. 研修期間: 2020 年 9 月 23 日(水)～10 月 2 日(木)
2. 研修場所: 国際協力機構筑波センター(JICA 筑波) 茨城県つくば市高野台 3-6
<https://www.jica.go.jp/tsukuba/index.html>
3. 参加者: 国内で待機中の農業・農村開発分野に携わる海外協力隊員 17 名
(別添2のとおり)
4. 研修日程: 別添1のとおり
5. 取材いただきたいプログラム ※この他の取材も可・個別インタビュー等も調整いたします。
 - 9 月 23 日(水) 15:00-17:00 「参加者自己紹介プレゼンテーション」
17 名の海外協力隊員が自身の途上国での活動内容や、研修に参加する動機をプレゼンテーション形式で発表します。数分程度であれば、プレゼンテーション終了後に個別インタビュー可。
 - 9 月 25 日(金) 9:00-12:30 「農村振興: 生活改善アプローチ」
つくば市にある NPO 法人国際農民参加型技術ネットワーク(IFPaT)が講師となり、途上国の農村での普及活動に必要なスキルを実習形式で学びます。
 - 10 月 1 日(木) 13:30-17:00 「農業・農村開発におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)」 途上国にある既存の技術と ICT や DX 技術を組み合わせた農業の在り方について、JICA 筑波の圃場や機器を活用した実習とディスカッションを実施します。
 - 10 月 2 日(金) 9:30-12:30 「成果発表会&交流会」
17 名の参加者が研修内容を振り返り、今後に向けた意気込みを発表します。

以上

別添: 研修日程表、参加者リスト

【本件に関する問い合わせ先】

個別インタビューも調整いたします。お問い合わせください。

国際協力機構筑波センター 連携推進課 担当: 岡崎

TEL: 029-838-1144 E-mail: Okazaki.Yuka@jica.go.jp

研修日程表 (9月17日時点)

【技術補完研修】農業・農村開発 リフレッシュ研修 (JICA筑波)						参加人数	17名
研修期間	2020年9月23日 (水) ～10月2日 (金)					宿泊場所	JICA筑波
研修場所	JICA筑波 (つくば市高野台3-6) 研修棟3階講堂					使用言語	日本語
日付	時刻		研修内容		講師		
9/23 (水)	14:00	～ 15:00	受付・オリエンテーション				
	15:00	～ 17:00	発表会				
	17:00	～ 17:30	施設案内				
9/24 (木)	9:00	～ 12:30	稲作「※1 ネリカ米を中心に」			(一社) 海外農業開発協会 (ONDA)	
	13:30	～ 17:00	稲作「稲の収量と収量構成要素」			(一社) 海外農業開発協会 (ONDA)	
9/25 (金)	9:00	～ 12:30	「生活改善アプローチの実践」			NP0法人国際農民参加型技術ネットワーク (IFPaT)	
	13:30	～ 17:00	野菜栽培「ホカシ作り」			国際耕種株式会社	
9/26 (土)		～	JICA研修員との交流会 (企画中)				
9/27 (日)		～	休日				
9/28 (月)	9:00	～ 12:30	野菜「SHEP※2 ワークショップ」 (協力隊活動における同僚との係わり方)			(一社) 海外農業開発協会 (ONDA)	
	13:30	～ 17:00	野菜「SHEP理論」			JICA経済開発部	
9/29 (火)	9:00	～ 12:30	「種子伝染病の対策」 (トマトかいよう病を例として)			JICA筑波研修業務課	
	13:30	～ 17:00	「土壌・施肥」			JICA筑波研修業務課	
9/30 (水)	9:00	～ 12:30	「参加型開発・農村調査手法」 (グループワーク)			株式会社アールディーアイ	
	13:30	～ 17:00	灌漑「水循環の科学」			JICA筑波研修業務課	
10/1 (木)	9:00	～ 12:30	農業機械「機械化は農業を楽しく豊かに変える」			NP0法人国際農民参加型技術ネットワーク (IFPaT)	
	13:30	～ 17:00	「農業農村開発におけるデジタルトランスフォーメーション (DX)」			株式会社三祐コンサルタンツ	
10/2 (金)	9:30	～ 12:30	成果発表会&交流会				
			※1 ネリカ米：ネリカ (New Rice for Africa: NERICA) とは、高収量のアジアネと病気や雑草に強いアフリカ米を交配することによって出来上がった品種の総称です。アフリカ米センター (Africa Rice Center (旧 West Africa Rice Development Association: WARDA)) が、1992年にアジア米とアフリカ米の種間交雑に初めて成功し、現在は水稲60種、陸稲18種が登録されています。日本は、1996年以降、JIRCAS、JICAから研究者、専門家を派遣し、品種開発・普及を支援してきました。 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/nerica.html				
			※2 SHEP (Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion) アプローチ：2006年から始まったケニア農業省とJICAの技術協力プロジェクトにおいて開発された小規模園芸農業支援のアプローチ。野菜や果物を生産する農家に対し、「作って売る」から「売るために作る」への意識変革を促し、宮農スキルや栽培スキル向上によって農家の園芸所得向上を目指すものです。 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/shep/index.html				

「農業・農村開発 リフレッシュ研修（JICA筑波）」参加者リスト

No	派遣国	職種
1	ミクロネシア	野菜栽培
2	セネガル共和国	コミュニティ開発
3	グアテマラ	土壌肥料
4	インド	コミュニティ開発
5	パラグアイ	土壌肥料
6	ケニア	野菜栽培
7	ドミニカ共和国	食用作物・稲作栽培
8	パラグアイ	コミュニティ開発
9	ガーナ	コミュニティ開発
10	エクアドル	コミュニティ開発
11	ウガンダ	コミュニティ開発
12	ケニア	コミュニティ開発
13	ザンビア	野菜栽培
14	ドミニカ共和国	コミュニティ開発
15	メキシコ	環境教育
16	タンザニア	コミュニティ開発
17	パラグアイ	農産物加工